

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0272501016		
法人名	社会福祉法人七戸福祉会		
事業所名	グループホームクオレ七戸		
所在地 (電話番号)	〒039-2514 青森県上北郡七戸町太田野19番地4 (電話) 0176-62-5341		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年4月25日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算 16人	

(2) 建物概要

建物構造	ユニット1 鉄筋コンクリート造り / ユニット2 木造		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 ~ 23,000 円	その他の経費(月額)	5,000 ~ 冬期10,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢 平均	83 歳	最低	72 歳
		最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立七戸病院、柏葉医院、石井医院、高田歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>共用空間は写真や絵画等の装飾と光の調節により、明るく落ち着いた雰囲気となっている。居室は、入居されている方々が居心地良く過ごせるよう、出来る限り入居前の生活空間に近づけるよう配慮している。地域との関わりはホームを運営する法人全体で積極的に取り組んでおり、良好な関係を築いている。青森ねぶたや十和田湖花火大会の見学を主催し、バスを貸しきって地域の方々と一緒に出かけたり、温泉で認知症に対する普及教室を開催したりと、共に楽しんでいけるような行事を催している。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との関わりは、地域交流及び地域貢献にホームを運営する法人全体で積極的に取り組んでおり、地域の方々と良好な関係ができています。重度化や終末期に向けた方針の共有については、現状ではまだ医療機関との連携体制が十分とは言えず、現在の課題として捉え体制確保に向け取り組んでいる。空調管理については、加湿器を設置し湿度を保てるよう取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価の結果について職員会議で今後の取り組みを話し合い、法人の幹部会へ上げ更に対応を検討する体制を取り評価を活用している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催している運営推進会議や、毎月訪問のある町役場の相談員から意見や情報を頂き、サービスの向上につなげる取り組みをしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時の面談や意見、希望等を記載してもらえよう書面の郵送等により意見の収集を図り、内容によって職員会議や法人の幹部会で検討し対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域交流及び地域貢献には、ホームを運営する法人全体で積極的に取り組んでおり、地域の方々と良好な関係ができています。日常生活では近所の方が畑で採れた野菜を差し入れてくれたり、立ち寄って一緒にお茶を飲んだりと、親近感のある関係が築けている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した事業所、出来る限りこれまでの生活と同じ環境が提供できる事業所等を目指し、「住み慣れた町で、地域と交流を図り、個々が笑顔で過ごせるよう支えていきます」を理念に掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催している職員会議で、理念に沿ったケアの提供が出来ているか振り返っている。また、職員はケアの提供方法に迷った際には、理念を基に考え日常の支援に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域交流及び地域貢献には、法人全体で積極的に取り組んでおり、青森ねぶた見学や十和田市花火大会見学等は法人が主体で地域の方にも呼びかけ、バスを貸しきって利用者及び家族、地域の方と一緒に出かける機会を作っている。認知症普及活動としては、同法人で運営している在宅介護支援センターと合同で家族介護者教室及び認知症予防教室を開催し、地域の方々に働きかけている。地域住民との関係は良好で、近所の方が野菜を差し入れしてくれたり、立ち寄って一緒にお茶を飲んだりする関係が出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の結果について職員会議で今後の取り組みを話し合い、法人の幹部会へ上げ更に対応を検討する体制を取り評価を活用している。外部評価の結果及び今後の取り組みや対応については、利用者家族へ配布している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催しており、現状の情報共有や意見の汲み取り、今後の対応等について話し合い、サービス向上に活かされている。出席出来なかった委員へは、後日、会議内容を配布し、次の開催に繋げている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町役場より相談員が毎月訪問してくれている。利用者と同様顔なじみの関係が出来ており、利用者からの声を職員に伝え、サービスの向上に活用している。また、町役場福祉課からは担当者が運営推進会議に出席しており、運営やサービスの向上について話し合われている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業及び成年後見制度についての研修会が開催されている。出来る限り職員全員が概略を説明できるよう取り組んでいる。詳細の説明が必要となる場合には、法人で詳細が説明できる担当者へつなげるような体制としている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会を開催し虐待防止関連法について学ぶ機会を持っている。また、毎朝、理事長の朝礼で虐待防止を徹底している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書を用い、疑問に答えながら一つ一つ説明し対応している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1度、事業所便りを作成し送付している。その中に利用者の近況を書いたものや、ケアプラン等への意見を書いてもらえるよう書面を入れている。また、通院した際には電話等で家族に報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の面談や手紙での情報交換により意見等の把握に努め、職員会議や法人の幹部会で対応について話し合い意見等の反映に努めている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動の際には、事前に週1回程度、顔なじみの関係が作れるよう時間を作っている。また、同法人で運営しているデイサービスや支援ハウスとは棟続きとなっており、本人も行き来ができる状態で、関係事業所の職員と接する機会もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での研修及び職場外への研修参加は、年度事業計画で予定が作成され研修が実施されている。また、必要に応じて計画外の外部研修への参加も実施している。全職員に認知症介護実践研修を受講してもらい、認知症介護のプロへの道を作ろうと取り組んでいる。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しており、同業者との交流がある。グループホーム協会主催で開催する事例発表会で発表したり、他事業所の発表を聞いたり互いの事業所の取り組みを勉強し合っている。また、同協会に入会している事業所へ見学に出かけたりもしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り入居前の生活空間と同じに出来るよう本人と家族と話し合い対応している。事前の見学や体験利用が可能となっている。また、家族も宿泊できることになっており、利用者が生活に馴染みやすいよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は出来る限りの時間を利用者と共に過ごしている。日常の家事や片付け等、利用者それぞれが役割を担っており共に生活するスタイルを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>食事や休憩も一緒に過ごす等、出来る限りの時間を利用者と共にし、会話や表情等から一人ひとりの思いの把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者からは日頃から希望の把握に努めており、家族からは面会時の面談や計画作成時に書面で希望の把握を行っている。計画作成は職員会議の中で全職員で話し合い作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期的な目標は3ヶ月、長期的な目標は6ヶ月で計画を作成し、見直しを行っている。状態が著しく変化した場合には随時見直しを行い、状態に即した計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院や買い物等の外出支援を柔軟に対応している。また、デイセンターや支援ハウスと棟続きの建物になっており、併設事業所の設備等も活用できる状態となっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前の医療機関へ通院を継続できるよう支援し、利用者及び家族の意向に添えるよう対応している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者及び家族が希望した場合には、終末期にも対応していきたいと考えているが、現状では医療機関との連携体制が十分とは言えず今後の課題と捉えている。</p>		<p>終末期にも対応していきたいと考えているため、医療機関との連携体制を確保し、終末期の対応も可能となるよう今後の取り組みに期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の書類関係は事務室で保管及び管理している。日常の誘導や言葉掛けは、周囲の状況や自尊心等に十分に配慮した対応を徹底している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの時間の使い方や生活習慣を大切に、起床時間や食事時間等を出来る限り本人の意向に沿うように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員が協力して調理、準備、片づけを行い、一緒に食事も摂っている。献立は、利用者から食べたい物を聞き、栄養バランスを考慮し栄養士が作っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日中であれば希望に添える形の体制を整え支援している。入浴用リフトが設置され、浴槽への出入り動作が困難な方でも入浴が可能である。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>共に生活するスタイルで、一人ひとりが日常生活の中で家事や炊事等の役割を持って生活するようにしている。また、入居前の趣味活動等が続けられるよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>暖かい期間は庭先でおやつを食べたりお茶を飲んだりしている。買い物や外食、自宅等への外出支援をし、日常生活で外出の機会を作っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は職場内外の研修や職員会議での話し合いを通じ、身体拘束をしないケアの実践について理解を深め取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は夜間のみ施錠している。日中、通院等の支援で職員数が著しく少ない場合には、事故防止のためにやむを得ず施錠することがある。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。非常通報装置及びスプリンクラーが設置されている。地域の方と関係が良好で災害時には支援を受けられるように話している。		地域の方との協力体制については、連絡先や連絡経路のマニュアル化等で具体的に整え、緊急時の備えをしていくことが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えた食事を提供しており、食事の摂取量は毎食確認して記録している。体調等により注意が必要な場合は、医療機関や訪問看護師とも相談し対応している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関を入ると手指消毒のための消毒液が設置しており、感染予防の注意事項が掲示されている。感染予防に対するマニュアルが設置されており、感染症への対応が出来る体制が整えられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホール等の共用空間には、芸術的な絵画や写真及び事業所での行事写真等が飾られている。天窓から光を取ったり照明を工夫したりし、明るく落ち着いた空間を作っている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り入居前の生活空間と同じに出来るよう本人、家族と話し合い、使い慣れた物を持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。